

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090500212		
法人名	社会福祉法人ジェイエー長野会		
事業所名	グループホームあぐり山本		
所在地	飯田市竹佐653-1		
自己評価作成日	平成28年12月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成29年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度4月よりJA長野会との合併により、法人の理念、行動目標に基づき、基本方針を掲げ、職員間で共有している。馴染みの関係でありつつも、常に節度を保っている。重度化してきている現状である中でも、グループホームならではの事での支援に努めている。地域の方々のご協力を頂きながら、行事や施設内の催事に参加する事ができている。保育園児、小学校の児童とのふれあい交流会や、地域の方々始め、シニア大学の畑作りなど各種ボランティアと協働して、共に暮らしを楽しむことができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所が地域にあることを意識し、あいさつなど日頃から気さくに開わりを持ち、地区の環境整備にも参加して関係づくりに努めており、お祭りや地域の行事に参加できる協力が得られている。また、地域やシニア大学のボランティアなど多くのボランティアの支援が受けられている。利用者本位のケアを心掛け、変化の見られた利用者にはセンター方式で利用者を見つめ、対応によってどう変化したかをつかみ、その情報を共有し利用者の側に立ってケアできるように意識して取り組んでいる。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(すみれ)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎月のケア会議、向上会議で読み合わせを行い、職員間で共有を図り、意識付けを行い、実践につなげている。</p>	<p>毎月の会議で理念を読み合せ、事例を出しながらケアの中で振り返り、皆で話し合い、利用者本位のケアを心掛けて実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事や小学校の運動会、音楽会に招待され参加している。</p> <p>地域の方々と笑顔で挨拶を交わすように心掛けている。地域の環境整備に参加している。</p>	<p>地域の方とは出会えば挨拶を交わし、世間話もし日頃から交流がある。祭りには獅子舞や木やりが来てくれたり、地元消防団がトランペット演奏を聞かせてくれたりと地域との交流がある。多くのボランティア支援が受けられている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>人材育成の貢献として、中学生の福祉体験、短大の実習生の受け入れを積極的に行っている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進委員の方々より、率直な意見や助言を頂き向上会議等で共有し、改善を図り、ケアの質の向上に向けて取り組みを行っている。</p>	<p>区長さんや民生委員、議会議員さんからはいろいろな情報を頂き、ヒヤリハットや事故報告では率直な意見やアドバイスが頂ける。意見は向上会議で話し合われケアの質の向上につなげている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>事業所連絡会に参加、指導を頂いている。</p> <p>運営推進委員会に包括支援センターから参加して頂き、相談や助言を頂いている。</p>	<p>事業所の状況や事故報告、ヒヤリハットなどでは市の担当課に出向いている。包括支援センターとは常に連絡を取り合い相談や助言を頂いている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体に危険が及ぶ可能性がある場合を除いて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は、夜間のみ施錠している。</p>	<p>事故やヒヤリハットは多いが、向上会議で対応を話し合い確認し合って拘束のないケアに取り組んでいる。身体に危険が及ぶような場合には家族に十分説明し納得の上行き、介護明細に記録し職員の共有を図っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>不適切なケアに付いて、日々のケアの振り返りや話し合いを行い、防止策に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会で学ぶ機会があったが、職員間で学ぶ機会、話し合いの場が少なく周知されていない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間を取り説明し、同意を頂いている。終末期に付いても、意向を聞いている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会でご意見、要望をうかがっている。出された意見は、連絡ノートや申し送り、向上会議で共有している。何でも話して頂けるよう、ご家族との信頼関係を深めるよう努力している。</p>	<p>ケアに関して家族の思いと職員の思いとのずれを感じる場面もあるが、職員の話し合いを十分に行い、家族の意向を尊重してケアをするよう努めている。家族会もあり意見は頂けている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ケア会議、向上会議、また、日常的に職員から意見や気付きを聞き、活かせるよう努めている。</p>	<p>意見は出しやすく向上会議でも多く出される。利用者を良く見ている意見が出され、車いす対応の車の必要性を本部に説明し購入できることになった経緯もある。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の働く意欲ややりがい、向上心を持って働けるよう、環境を整えるなどの配慮、対応に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。全体研修会において、研修報告会を実施する機会を設け、全職員が共有できるように図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡会に参加や、視察研修の受け入れを行い、交流し意見交換会を行い、サービスの質の向上に向けて取り組みを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、ご本人の気持ちを受け止め、安心が保たれるよう、関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をおうかがいし、受け止めながら関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような介護を求めているのか、見極め対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、また、暮らしの中でお互い様という気持ちや、共に支え合うという関係作りに留意しているが、ややもすると、支援されるのみの立場になりがちな所もある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで、日々の様子をお知らせしている。気兼ねなく立ち寄れるよう雰囲気作りをしている。ご本人と家族の絆を深めて行けるよう支援に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や、ご家族に会いに行くなど、つながりが継続出来るよう、家族に協力して頂いている。	家族との関係を大切にし家族の協力を得る中で、お墓参りに行く、自宅に帰る、美容院に行くなどしている。親しい友人と手紙を交換する利用者もあり、それをゆったりと支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員は共有し、利用者同士の関わり合いが上手く行くように職員が調整役になるよう心掛けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じて連携がとれるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。センター方式シートを活用し、本人の視点に立って把握しようと努めている。	特に気になった利用者については、24時間生活シートや毎日の気付きシートを使って利用者を見つめ、対応によってどう変化したかをつかむ取り組みを行い、職員が意識し情報を共有して利用者に関われるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より、生活歴を聞き職員で共有している。ご本人を知る上でも重要性があり、継続的に行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の様子を介護明細に記入し、心身の状態など、全員が確認し現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえて計画を立てている。毎月のケア会議で計画を確認、検討し見直しを行っている。	日々の介護明細から利用者の状況を確認し、ケア会議や向上会議で意見を出し合い、利用者の出来ることを見つけるようにして計画に活かしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護明細に記入、申し送りや会議で、気づきや工夫を話し合い、職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の状況により、受診同行を行いニーズに対応できるように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校や地域の行事に参加させて頂いている。地域の図書館のボランティアによる読み聞かせの会、音楽療法、日赤奉仕団、シニア大学など、各種のボランティアと協働し、共に暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人、家族の希望するかかりつけ医を受診して頂いている。基本的には家族同行の受診となっているが、場合に応じては職員が代行や同行をしている。協力医と常に連携を図り、早期治療に努めている。</p>	<p>今迄診て頂いた医師が主治医となっており家族が受診に連れて行く。急変時や精神疾患など必要な時は職員が付き添い、情報を共有し連携を図っている。JAの歯科診療や歯科衛生士の訪問も利用して口腔管理も行っている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調の状態の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化や気付いた事があれば施設看護師、訪問看護師に伝え相談、指示を受けている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院する場合も、基本的には協力医より連絡をして頂き、スムーズに入院出来るようにしている。職員も同行をし施設での様子をお伝えしている。状況も家族や病院関係者から連絡を頂いている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時や状況に応じ、段階的に家族と話し合いを行い、施設が対応できるケアに付いて説明させて頂き、同意書を交わしている。</p>	<p>事業所の出来ること出来ないことを家族に伝え、その都度家族や医師、訪問看護などと連携してどうするかを決めている。看取りに付いてもマニュアルがあり連絡方法など確認している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急手当や意識不明時の対処方法、心肺蘇生術などの学習及び実施訓練が未実施であり、定期的に行い、習得し対応できるように努める。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>訓練計画を作成し、年2回以上避難訓練を実施している。消防署、地元消防団、運営推進委員の地域の方々の協力を得て訓練をしている。</p>	<p>地震や火災の訓練を運営推進委員や地元消防団と一緒にやっている。防災頭巾には、右側が不自由などと一人ひとりの様子が書いてあり、利用者も参加して個々への対応も訓練している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、自尊心を傷付けないよう、一人ひとりの合わせた声掛けや対応に努めている。	一生懸命に関わることで感情的になってしまわないように、言葉遣いの研修を行い、意識を持って関われるように努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、ご本人が答えやすく、決定できるような働き掛けに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応に心掛けている。 業務本位にならないよう気を付けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを選んで頂いたり、整髪もできる方にはして頂き、手の届かない所はお手伝いをさせて頂き、身だしなみに心掛けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望献立や、季節を感じて頂ける献立に心掛けている。 グループホームの畑で収穫した野菜が食卓に上がり、楽しみへの支援につなげている。	季節の行事や誕生日は大切に考え、希望を聞いてメニューを考えている。ジャガイモや玉ねぎの皮を剥いたり、利用者の出来ることは一緒にやっけて頂いている。ボランティアと畑で野菜を作り収穫し食卓にのせている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量をだまかに把握している。状態に合わせて、食事形態に工夫し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携を図り治療に取り組み、歯科衛生士による個別の口腔ケアや指導を受けている。 個別に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護明細に排泄の記録をとり、一人ひとりの排泄チェックをしている。 排泄の状況に応じて、パットの種類を考慮している。	自立している利用者、リハビリパンツの利用者がいるが、一人ひとりの排泄の記録から、利用者の様子や時間を見ながら声を掛けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と連絡、相談を行い、薬の調整をしつつ、食事や水分補給の工夫を行い、取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定でない利用者であっても、失禁の状況に応じて入浴し、清潔保持に心掛けている。 入浴を拒まれた場合は、声掛けや職員間の連携によって、寛いで入って頂ける支援に心掛けている。	拒否する利用者もいるが無理しないよう心掛けて声を掛け、入浴後、にっこりしている姿が見られる。予定でなくても「今日入りたい」という利用者には対応して入浴出来るようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のペースで午睡をしたり、日中の活動を促し、夜は安眠できるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時に職員間で名前を確認し、ご本人に渡したり、介助で服用して頂いている。飲み忘れや誤薬の防止に服薬チェック表を用いている。 本人の状態変化の場合は、主治医、施設看護師、訪問看護師へ相談、指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事など、役割になっている仕事もあり、お願いした時には、感謝の言葉を伝えている。干し柿作りを行い、経験者から力を発揮して頂いた。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとお花見、紅葉ドライブ、外食会と計画実施しているが、全員が外出できるとは限らない。日常的に外出できるような個別の支援の工夫が課題である。	天気のいい日には外に出るようにしているが重度化で歩行自体が難しい利用者もあり、個別の支援が難しく課題だと感じている。	周辺を散歩する、ちょっと庭に出る、ウッドデッキに出て楽しむなど工夫されて、短時間でも一人ひとりが戸外に出られるよう取り組んで頂きたい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、日常生活費として施設で預かっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取次ぎを行っている。聞き取りが難しい場合は、プライバシーに配慮しながら、職員がやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは日当たりも良く、畳の間には炬燵や床の間があり、掛け軸を掛け、昔ながらの家庭的な雰囲気であり、四季折々の花を飾ったり、季節の行事の飾り物をしている。ボランティアの皆さんの作品展示も行った。	床の間のある畳の間があり、こたつが置かれ家と同じような空間があり、集まって話をしたり昼寝をしたりしてくつろげる場となっている。花やお雛様が飾られ季節を感じる事が出来る工夫がされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側に椅子を置き、外を眺めながら日向ぼっこをしたり、廊下にソファを置き、利用者同士が話をして寛いでいる姿が見受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の環境作りは、使い慣れたものや、馴染みのあるものを置くなど、家族と相談しながら用意して頂いている。	今迄使っていたタンスが置いてあったり仏壇が置いてあったり家族と相談しながら、利用者にとって居心地のよい空間を作って過ごしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身機能の状態を把握し、ご本人のできる事、わかる事を活かし、力が発起できる支援を向上会議などで話し合い、工夫している。 転倒防止の為、居室にセンサーを設置している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎月のケア会議、向上会議で読み合わせを行い、職員間で共有を図り、意識付けを行い、実践につなげている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事や小学校の運動会、音楽会に招待され参加している。</p> <p>地域の方々と笑顔で挨拶を交わすように心掛けている。地域の環境整備に参加している。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>人材育成の貢献として、中学生の福祉体験、短大の実習生の受け入れを積極的に行っている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進委員の方々より、率直な意見や助言を頂き向上会議等で共有し、改善を図り、ケアの質の向上に向けて取り組みを行っている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>事業所連絡会に参加、指導を頂いている。</p> <p>運営推進委員会に包括支援センターから参加して頂き、相談や助言を頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体に危険が及ぶ可能性がある場合を除いて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は、夜間のみ施錠している。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>不適切なケアに付いて、日々のケアの振り返りや話し合いを行い、防止策に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会で学ぶ機会があったが、職員間で学ぶ機会、話し合いの場が少なく周知されていない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間を取り説明し、同意を頂いている。終末期に付いても、意向を聞いている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会でご意見、要望をうかがっている。出された意見は、連絡ノートや申し送り、向上会議で共有している。何でも話して頂けるよう、ご家族との信頼関係を深めるよう努力している。</p>		
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ケア会議、向上会議、また、日常的に職員から意見や気づきを聞き、活かせるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の働く意欲ややりがい、向上心を持って働けるよう、環境を整えるなどの配慮、対応に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。全体研修会において、研修報告会を実施する機会を設け、全職員が共有できるように図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡会に参加や、視察研修の受け入れを行い、交流し意見交換会を行い、サービスの質の向上に向けて取り組みを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、ご本人の気持ちを受け止め、安心が保たれるよう、関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をおうかがいし、受け止めながら関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような介護を求めているのか、見極め対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、また、暮らしの中でお互い様という気持ちや、共に支え合うという関係作りに留意しているが、ややもすると、支援されるのみの立場になりがちな所もある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで、日々の様子をお知らせしている。気兼ねなく立ち寄れるよう雰囲気作りをしている。ご本人と家族の絆を深めて行けるよう支援に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や、ご家族に会いに行くなど、つながりが継続出来るよう、家族に協力して頂いている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員は共有し、利用者同士の関わり合いが上手く行くように職員が調整役になるよう心掛けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じて連携がとれるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。センター方式シートを活用し、本人の視点に立って把握しようと努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より、生活歴を聞き職員で共有している。ご本人を知る上でも重要性があり、継続的に行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の様子を介護明細に記入し、心身の状態など、全員が確認し現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえて計画を立てている。毎月のケア会議で計画を確認、検討し見直しを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護明細に記入、申し送りや会議で、気づきや工夫を話し合い、職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の状況により、受診同行を行いニーズに対応できるように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校や地域の行事に参加させて頂いている。地域の図書館のボランティアによる読み聞かせの会、音楽療法、日赤奉仕団、シニア大学など、各種のボランティアと協働し、共に暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人、家族の希望するかかりつけ医を受診して頂いている。基本的には家族同行の受診となっているが、場合に応じては職員が代行や同行をしている。協力医と常に連携を図り、早期治療に努めている。</p>		
31		<p>看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調の状態の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化や気付いた事があれば施設看護師、訪問看護師に伝え相談、指示を受けている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院する場合も、基本的には協力医より連絡をして頂き、スムーズに入院出来るようにしている。職員も同行をし施設での様子をお伝えしている。状況も家族や病院関係者から連絡を頂いている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時や状況に応じ、段階的に家族と話し合いを行い、施設が対応できるケアに付いて説明させて頂き、同意書を交わしている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急手当や意識不明時の対処方法、心肺蘇生術などの学習及び実施訓練が未実施であり、定期的に行い、習得し対応できるように努める。</p>		
35	(13)	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>訓練計画を作成し、年2回以上避難訓練を実施している。消防署、地元消防団、運営推進委員の地域の方々の協力を得て訓練をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、自尊心を傷付けないよう、一人ひとりの合わせた声掛けや対応に努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、ご本人が答えやすく、決定できるような働き掛けに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応に心掛けている。 業務本位にならないよう気を付けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを選んで頂いたり、整髪もできる方にはして頂き、手の届かない所はお手伝いをさせて頂き、身だしなみに心掛けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望献立や、季節を感じて頂ける献立に心掛けている。 グループホームの畑で収穫した野菜が食卓に上がり、楽しみへの支援につなげている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量をだまかに把握している。 状態に合わせて、食事形態に工夫し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>訪問歯科と連携を図り治療に取り組み、歯科衛生士による個別の口腔ケアや指導を受けている。 個別に応じた口腔ケアを行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>介護明細に排泄の記録をとり、一人ひとりの排泄チェックをしている。 排泄の状況に応じて、パットの種類を考慮している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>看護師と連絡、相談を行い、薬の調整をしつつ、食事や水分補給の工夫を行い、取り組んでいる。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴予定でない利用者であっても、失禁の状況に応じて入浴し、清潔保持に心掛けている。 入浴を拒まれた場合は、声掛けや職員間の連携によって、寛いで入って頂ける支援に心掛けている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活のペースで午睡をしたり、日中の活動を促し、夜は安眠できるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時に職員間で名前を確認し、ご本人に渡したり、介助で服用して頂いている。飲み忘れや誤薬の防止に服薬チェック表を用いている。本人の状態変化の場合は、主治医、施設看護師、訪問看護師へ相談、指示を受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事など、役割になっている仕事もあり、お願いした時には、感謝の言葉を伝えている。干し柿作りを行い、経験者から力を発揮して頂いた。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとお花見、紅葉ドライブ、外食会と計画実施しているが、全員が外出できるとは限らない。日常的に外出できるような個別の支援の工夫が課題である。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、日常生活費として施設で預かっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取次ぎを行っている。聞き取りが難しい場合は、プライバシーに配慮しながら、職員がやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは日当たりも良く、畳の間には炬燵や床の間があり、掛け軸を掛け、昔ながらの家庭的な雰囲気であり、四季折々の花を飾ったり、季節の行事の飾り物をしている。ボランティアの皆さんの作品展示も行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側に椅子を置き、外を眺めながら日向ぼっこをしたり、廊下にソファを置き、利用者同士が話をして寛いでいる姿が見受けられる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の環境作りは、使い慣れたものや、馴染みのあるものを置くなど、家族と相談しながら用意して頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身機能の状態を把握し、ご本人のできる事、わかる事を活かし、力が発起できる支援を向上会議などで話し合い、工夫している。 転倒防止の為、居室にセンサーを設置している。		

目標達成計画

作成日:平成29年3月13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49 (18)	日常的な外出支援。 身体レベル低下、外出の支援が難しい現状。	就業理念、5分間利用者と寄添おうに合わせ、 短時間でも一人ひとりが所外に出られるよう取 組む。	・短時間でも戸外に出る機会を作り気分転換やス トレス発散、五感への刺激を得ることができる貴 重な時間として、日々の生活の中に活かす。 ・職員間の連携。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。